

「クリエイター等支援(育成プログラム構築・実践)」ロジックモデル (R6年度補正予算額:95億円)

現状

日本発コンテンツは世界的に需要が拡大する一方で、作品を制作・海外展開するために必要なクリエイター等が不足。魅力的な作品作りを維持し、海外展開を強化していくためには、クリエイターだけでなく、ビジネスや海外展開に長けたプロデューサー等の専門人材確保、ネットワーク形成等が必要。

課題

・国際的な展開を視野に入れた大学・専門学校等による育成プログラムの開発や、産業界や国際市場のニーズを踏まえた先端技術による制作、IP開発やライセンス管理等のスキルの明確化等が必要。

本事業の目的

・クリエイターとして国際的な活躍を目指す学生や社会人に求められるスキルを習得する育成プログラムの構築・実装化を、独立行政法人日本芸術文化振興会に設置する基金を活用して弾力的かつ複数年度にわたって支援する。

(現状・課題を示すデータ)

・世界・日本のコンテンツ市場の規模(1ドル=109円)

H30(2018):

世界 128.8兆円 日本 10.6兆円(8.25%)

R5(2023):

世界 141.6兆円 日本 11.3兆円(7.98%)

世界市場の拡大に伴い、日本市場が占める割合は減少傾向。

(経済産業省「コンテンツの世界市場・日本市場の概観」より)

インプット (資源)

▶ アクティビティ(活動内容)

▶ アウトプット(活動目標)

初期アウトカム (成果目標)【3年】

長期アウトカム (成果目標)【5年】

【参考】アウトカム (成果目標)【10年程度】

R6年度
補正予算額
95億円/3年
【メニュー1】
コンテンツ分野における産学官連携による教育機関の機能強化支援
【メニュー2】
コンテンツ創造・海外展開のための実践的な社会育成支援

・海外で活躍するクリエイター等を育成する大学・専門学校等による国際的な育成プログラムの開発・実証・実装【メニュー1】
・コンテンツ関係企業等による海外も含めた実践の場で必要なスキルを習得する国際的な育成プログラムの開発・実装【メニュー2】

・国際的な展開を視野に入れた育成プログラムの開発・実証・実装【メニュー1】
・国内で活躍するクリエイター等に必要なスキルを海外も含めた実践の場で習得する育成プログラム等の開発・実装【メニュー2】
・本事業を通じた国内外におけるネットワークの形成【メニュー1、2】

・国際的な活躍を視野に入れた育成プログラムの開発・実証【メニュー1】 KPI ①
・コンテンツ創造・海外展開のための実践的な育成プログラムの開発・実装【メニュー2】 KPI ②
・育成プログラムを通じた国内外ネットワーク形成【メニュー1、2共通】 KPI ③

・海外を含めた実践を伴う育成プログラムの実証・実装【メニュー1】 KPI ④
・クリエイター等の国際的活躍・評価の向上【メニュー2】 KPI ⑤
・クリエイター・専門人材等の海外展開【メニュー2】 KPI ⑤

・文化芸術活動の活性化(クリエイター等の海外での活躍を含む) KPI ⑥
・コンテンツ市場の維持・拡大 KPI ⑥
・我が国の文化芸術の国際的なプレゼンスの向上 KPI ⑦
・海外を通じた相互理解の促進 KPI ⑧

インパクト

・日本が生み出す優れたコンテンツや人材を自発的に発信し、国際的に高い評価を得て、新たなコミュニティやファン層を獲得するとともに、訪日外国人観光客の増加や相互理解を促進し、我が国の文化と経済の好循環に向けた文化芸術によるソフトパワーが形成・展開される。

主な測定指標と目標値

* 以下のような主なKPIについて事業の対象となるマンガ、アニメ、ゲーム、音楽、舞台等の分野特性に応じて、初期(3年)、長期(5年)の変化も踏まえ成果評価を行う予定。

KPI ① ・国際的な活躍に必要なスキルを習得するために開発・実証された育成プログラムの数(R9年21件)

KPI ② ・コンテンツ創造・海外展開のための実践的な育成プログラムの開発・実装(R9年14件)

KPI ③ ・国内外の教育機関や専門機関等との連携数

KPI ④ ・育成プログラムの参加者のうち、世界的に認知されている海外の芸術祭・文化施設・大学等の教育機関への参画や招へいを受けた人数(R11年42人)

KPI ⑤ ・育成プログラムの参加者が海外の著名な賞の受賞・ノミネートや世界的に認知されている海外の芸術祭・文化施設等へ出品・参画して高い評価を受ける件数(R11年10件)

KPI ⑥ ・[参考]世界のコンテンツ市場に占める日本の割合(R5年7.98%→R15年までの平均値増)

KPI ⑦ ・[参考]「マンガ、アニメーション」「映画」を日本の文化芸術として諸外国に発信すべきだと思う人の割合(R5年度は22.1%と7.1%→R16年までの平均値増)

KPI ⑧ ・[参考]日本と諸外国との文化交流の推進が「日本と諸外国との間の相互理解や信頼関係が深まり、国際関係の安定につながる」意義があると回答した人の割合(R5 53.6%→R15年までの平均値増)